

令和6年11月7日

守谷市議会議長 殿

報告者 議会運営委員会 印
海老原博幸

議会運営委員会 視察・研修報告

標記の件について、次のとおり 実施 ・ 参加 したので報告します。

視察・研修日	令和6年10月23日（水）
視察・研修場所	小諸市役所会議室
視察・研修項目	議員定数及び報酬検討委員会の活動内容について学ぶ
参加者	守谷市側 高橋典久、渡辺大士、寺田文彦、梅木伸治、長谷川信市、高梨隆、堤茂信、山本広行、田中啓一、海老原博幸
	相手側 丸山正昭議長、土屋利江副議長、高橋公議運委員長 中村美奈子議運副委員長、 清水喜久男議員定数及び報酬等検討委員会委員長
視察・研修目的	小諸市での議員定数及び報酬の見直しについての状況について勉強する
視察・研修内容	小諸議会の取組について説明を受ける
視察・研修総括 (今後の取組み等)	小諸市では平成31年1月に行われた市議会議員選挙において無投票の結果となったことを契機に、議員定数と議員報酬について「小諸市議会議員定数及び報酬等検討委員会」にて令和7年1月までに検討を進めることになった 今回は同委員会による中間報告書をもとに、検討状況について説明をうけた。 委員会発足から8ヶ月経っての中間報告書であったが、簡単に結論が出る内容ではないことが説明からも感じられた。 守谷市でも近年の選挙状況から無投票もありあり得る状況のため、今後も調査・研究を進める必要性を感じた。

視察・研修内容

小諸市では平成 31 年 1 月の市議会議員選挙において、市政発足以来初めて議員定数 19 名に対して立候補者数 19 名と同数であったため無投票となった。

これを機会に「議員定数」や「議員報酬」について様々な意見交換が行われ、次回選挙の 1 年前の令和 7 年 12 月までに議員定数及び議員報酬について「小諸市議会議員定数及び報酬」について調査・検討することになった。

今回は令和 5 年 12 月から令和 6 年 8 月までの期間で行った内容の中間報告書の説明を受けた。

小諸市の議員定数は平成 11 年に 26 名から 24 名に、平成 19 年に 24 名から 21 名に、平成 27 年に 21 名から 19 名になっている。

議員報酬は平成 10 年に 326,000 円/月から 333,000 円/月に 7,000 円/月増額されて以降 26 年間 333,000 円/月で推移している。

小諸市の人口が令和 5 年度で 41,562 人であることから全国の人口 39,000 人～44,000 人の 36 市と長野県の 19 市と比較検討を行った。

議員定数は類似団体 36 市の議員定数平均が 17.9 人で小諸市より 1.1 人少ない状況。

議員報酬は平均が 349,253 円で小諸市より 16,253 円高い状況である。

また、講習会に参加したりや図書等で掲載された識者の意見を色々まとめたりしたが集約された見解にならず、適切な議員定数と議員報酬に対する「正解」はないという結論に至っている。

検討委員会においては、「議員定数」については「削減」との意見が多数、「現状維持」が 1 名。

「議員報酬」については 16,000 円から 20,000 円までの間の増額が多数、20,000 円以上の増額が 1 名となり、評決で 20,000 円増額することを委員会の意見としたが、今後行うパブリックコメントや市民説明会の意見等を参考に最終的な見解をまとめることになった。

守谷市でも市議会議員選挙が定員 20 名に対し 2000 年の選挙では立候補者数 23 名、2024 年選挙では 22 名と、減少傾向にあり、今後無投票ということもあり得る状況にあり、今後も継続して「議員定数」「議員報酬」について調査・研究を継続していく必要がある。

また見直しについても色々な角度からの検討の他、多くの市民に納得してもらう必要があることから計画的に一定期間の時間をかけて進めることになると思う。